

会議要録

【開催概要】

会議名称	第1回 丹波市立農の学校検証委員会
開催日時	令和7年2月4日(水) 18:30~20:30
開催場所	氷上住民センター 大会議室
出席委員 (名簿順表記)	中塚 雅也委員、婦木 克則委員、須原 隆一委員、岩元 清志委員、 宮垣 美絵子委員、酒井 宏之委員、柳澤 吉彦委員、 武田 佐保子委員、中出 靖大委員 (計9名)
欠席委員	欠席者なし
事務局	4名
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 委嘱状の交付 4. 委員紹介 5. 委員長及び副委員長の選任について 6. 議事 ①委員会の目的、農の学校の現状について ②検証までの流れについて ③調査項目の検討 ④その他 7. 閉会
会議資料	・ 次第 ・ 丹波市立農の学校検証委員会 委員名簿 ・ 丹波市立農の学校検証委員会 第1回資料

【議事要旨】

事務局	1. 開会 丹波市立農の学校検証委員会を始める。委員長が決定するまで、事務局が進行を務める。
事務局	2. 挨拶 委員の皆様方には、丹波市の農業振興にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。開設から7年を迎えた農の学校について、一定の成果を上げているが、農業取り巻く環境の変化を踏まえ、これまでの取組を客観的に検証し、より効果的な運営の方向性を定めるため、忌憚のないご意見をいただきたい。
事務局	3. 委嘱状の交付 委嘱状は机上に配布させていただいている。任期は、本日2月4日から令和9年の2月3日までとしているが、この検証委員会については、令和8年6月頃までを目途としている。
事務局	4. 委員紹介 委員名簿を参考に、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたい。 (委員自己紹介)
事務局	5. 委員長及び副委員長の選任について 委員長：中塚委員 副委員長：婦木委員
事務局	6. 議事 これより議事にうつる。ここからの進行は委員長にお願いする。
委員長	(1) 委員会の目的、農の学校の現状について 資料を用いて事務局から説明
委員長	ただいまの説明についてご質問はあるか。
副委員長	卒業生の就農状況はどうなっているのか。
事務局	現時点では追い切れていないため、今回の調査で把握したいと考えている。
委員	現時点での農の学校の定員はどれくらいか。
事務局	定員は20名である。
委員	入学希望者には試験等を実施しているのか。
事務局	試験等は実施していない。説明会等を実施し、農の学校がどういったところかを理解して入学の検討をしてもらっている。また、集団活動もあるので、面談等を通して適性かどうかの判断はしている。
委員長	途中で退学する生徒はいるのか。

事務局	毎年、家庭の事情等で若干数いる。
委員長 事務局	資料7ページの「修了時点の就農状況」の人数が卒業生か。 その通りである。
委員長 事務局	(2) 検証までの流れについて 資料を用いて事務局から説明
委員長	ただいまの説明についてご質問はあるか。
委員	資料13ページ中に5年後の経営について質問するとあるが、5年で期間を区切る意図はあるのか。
事務局	対象者によっては、今後のことをイメージする際、1年後・10年後など幅が出てくると考え、一定程度の5年という区切りで具体的に比較ができるようにした方が良いと考えている。
委員 事務局	現在の経営状況については聞かないのか。 聞く想定である。資料13ページのマトリクスにおいて、修了生の「就農について」で整理している通りに調査を実施する想定である。
副委員長	農の学校の類似施設を卒業した人たちに、授業の満足度や卒業後の経営状況も聞いてみたほうが良いのではないか。
事務局	資料18ページに記載しているとおり、類似施設において「受講生・修了生に好評なカリキュラムは何か」「就農後の経営状況は安定しているか」などを聞く想定である。
委員	地域関係者への調査について、農会・自治会に加えて、農業委員の方々も調査対象とした方が良いのではないか。
事務局	調査対象者が多くなるとスケジュールが厳しくなるので、全員へのヒアリングは難しいかもしれないが、意見を伺う機会を設けられればと思う。
委員長	今回の調査とは別で、毎年満足度調査等を実施していないのか。また、修了生に関しては、卒業直後よりも数年経った時点でどういったことを学ばよかったのかなどを聞くのも効果的ではないか。
事務局	実施している。既存アンケートの結果は、資料14ページに記載ある通り、既存データとして分析対象としている。修了生については、今回の調査で情報を収集する想定である。
委員長	受講生に対する毎年のアンケートは、今回の調査とは関係なく毎年実施しているということで良いか。
事務局	その通りである。過去のアンケート結果は今回の業務で分析等行う想定である。
委員長	(3) 調査項目の検討について

事務局	資料を用いて事務局から説明
委員長	ただいまの説明についてご質問はあるか。
委員長	現時点の事務局が考える課題を教えてほしい。
事務局	4つあると考えている。 ①受講生の定員適正化 現在の定員は20名だが、受講生一人ひとりへのフォローや学校運営の効率化の視点を踏まえた際、妥当かどうかの検討が必要と考えている。 ②作付品目 耕作放棄地解消という市の課題解決も見据え、黒豆や小豆、水稻などの土地利用型の品目が必要と考えている。 ③知識取得 経営面・技術面において、農の学校修了後に独立して持続可能な農業経営を実現するために、十分な水準の知識が提供できているのかを検証する必要があると考えている。 ④修了生のフォローアップ 丹波市と農の学校のフォローアップが、修了生のニーズとマッチしているのかを検証する必要があると考えている。
事務局	補足ではあるが、資料4ページに7期生までの入学者数を整理している。6期生までは15人前後の入学者だったが、7期生は8名、かつ、家庭の事情によって半期で2名退学している。8期生の募集を現在実施しているが、入学者数は7期生と同程度になると推測している。そもそも、新規就農希望者のニーズと農の学校のカリキュラムが合っているのか。大手企業の初任給アップ等による農業全体への関心が薄くなっているということも考えられる。丹波市に新規就農者を呼び込むにはどうすればよいかという点も課題だと認識している。そして、1期生が卒業して令和6年の冬時点で認定新規就農者期間が終了しているが、所得要件が上がる認定農業者へステップアップできていない現状も課題である。
委員長	人を集めるためにも、きちんとデータに基づいて対策を講じる必要がある。幅広い視点での意見を求める。
委員	農の学校の認知度について、どれくらい知れ渡っているか分かるか。また広報に対してどれくらいのアプローチがあったか分かるのか。
事務局	詳細の把握は難しい。
委員	具体的なリーチ数の測定は難しいかもしれないが、どのような広報活動を行ってきたか、過去の受講生はどの情報を入手して入学したかなどから把握できるものもあるのではないかと。受講生の出身地から拾える情報もあると思うので、検討をしてもらいたい。

委員	それぞれがどのような媒体から情報を入手したのか。どの広報媒体を見て入学しようと思ったのかを調べるのも良いのではないか。
委員	類似施設との比較において、広報面での成功事例が見つかる可能性もある。
委員長	高い意識と技術を持つ人材は、違うルートで検討をしていることもあり得ると思う。こういったターゲットに情報発信をするのか、明確にしていくことが必要かと思われる。
副委員長	丹波市での新規就農者は、農の学校の修了生が多いが、隣の丹波篠山市では、農業系学校卒業生ではない人の就農者が多い。特に家の後継者が多い。農の学校は、有機農業を前面に出しているが、新規就農希望者のニーズとしては、最後まで就農が見込めるロードマップを示しているところに人が集まる傾向があるのも事実である。そういった点で、現在の類似施設としては、有機農業を売りとしている施設を対象としているが、より広い視野での検討も必要ではないか。
委員長	カリキュラムの妥当性等を踏まえると大事な意見だと思う。
委員	私のところに修了して3年目の農の学校の修了生がいる。今後は、土地利用型の米作りを見据えているが、1年間で卒業というのはやはりハードルが高いと思う。1年間では、栽培技術の習得は出来ても、地域との関係構築や、経営管理まで習得するのは非常に難しいと思う。実際、地域とのトラブルが発生しているケースもある。それらへのバックアップは大切である。また、市・学校としても入学者数を増やすことは大切であるが、定着率を高めることも重要である。そのためにも、既存就農者や認定農業者の意見を取り入れる必要があると思う。
委員	農業は黒字倒産が多い業界である。収支状況が良くてもキャッシュがないため経営が悪化するケースもある。センシティブではあるが、調査できれば重要な情報となるのではないか。
委員	67万円という受講料は高額なのではないか。国の補助金を活用していると思うが少し高い気がする。1年では短いため、受講日を週の半分くらいにして2年間にした方が良いのではという意見もある。
委員長	シビアに言うと、受講料とカリキュラムが見合っているかどうか。受講生が満足し、お金を払うだけの価値があるとなると認知度はあがるはずではある。そもそも受講を決めた後でも、どこで家を探すか等の予定外の出費がある。困ったことなどのデータ収集も必要だと思う。
委員	住む場所が見つからず諦める人がいるのかどうかも気になる。交通の問題もあ

	<p>と思うため、生活環境全体のサポートが必要である。</p>
委員	<p>販路開拓の件でアンケートを実施して、返ってきた人に対して電話でヒアリングを 31 人ほどに実施した結果があるので、既存データとして活用いただければと思う。</p>
委員	<p>地域の中で新規就農者を増やしたいという意見がたくさんあるが、一方で新規就農者は、農地探しにとっても苦労している。新規就農者との情報交換はできているのか。また、卒業してすぐに就農するのは大変そうだと感じる。卒業後、農家で研修し、就農した人の方がうまくいっていると感じる。農家のもとでの研修制度の充実も良いのではないか。</p>
委員	<p>調査対象として、卒業生が出荷している直売所や卸先などの取引先からの評価をヒアリングするのはどうか。供給の安定化などを評価項目として数値化・可視化して、改善点を検討するのも一つだと思う。</p>
委員	<p>楽農生活センターや農業大学校では、入学選抜時に農地や就農資金の有無を確認し、準備が不十分な入学希望者には入学を断ることもある。入学までの研修経験や家庭菜園の経験などを確認し、1 年後の就農イメージが明確に描けているかを入学前に見極めている。地域の農業者が新規就農者を支援できるキャパシティには限界があり、毎年多数の卒業生を地域に送り出すことが適正かどうかを検証する必要がある。</p>
委員長	<p>念のためスケジュールの確認だが、4 月の会議の時には、今回の調査結果が出てくるということか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
委員	<p>就農のタイミングでの具体的な就農相談があれば満足度にも繋がってくると思う。青垣町の一部のエリアでは、農地の取り合いがあったと聞いているが、その一方で耕作放棄地も増えている。新規就農者と地域のマッチングがうまくいっているかどうか重要であり、地域の受け入れ体制を明確にしておく必要もある。</p>
委員	<p>地域の受け入れ体制がどうかを聞いておくと、マッチングができているか分かるのではないか。</p>
委員	<p>農会長が農業をしていない地域もある。農業委員でもその地域の実情を把握しきれていないこともある。</p>
委員	<p>認定農業者の方からの視点も重要である。</p>
副委員長	<p>農業委員は、自治会長との接点も多く、新規就農に関する話をしていることも多々ある。農業委員は地域との接点が非常に多い。</p>
副委員長	<p>毎年農の学校に講義をしに行くが、1 期生から 7 期生まで期ごとに色や性格が</p>

	<p>全然違う印象である。直近になればなるほど、本気で就農を目指す人が少なくなっている印象がある。その理由が、農の学校のカリキュラムなのか、社会情勢なのかかわからないが、そういったことを調べるのも面白いかもしれない。</p>
委員長	そろそろ時間であるが、他に意見はあるか。
事務局	類似施設について、今回は農の学校と近い体系の施設を対象としているが、有機農業に特化した学校だけでなく、慣行農法を教える学校など、幅広い施設を比較対象とした方が良いか。
副委員長	幅広い施設を比較してみて、5年後、結局どういった状況になったのかということ考えた時、本当に今の農の学校の仕組みでいいのかという視点で調べる必要があるのではないか、と思ったため意見として出した。
事務局	検討する。
委員長	競合施設のポジショニングを把握する目的で細かいことよりもどのような関係なのか等の調査で良いと考える。
事務局	農の学校と比較できそうな施設があれば教えてほしい。
副委員長	例えば大阪では、地元の農家が運営している学校もある。
事務局	有機に特化するのか慣行もするのか。農の学校がどうあるべきかの答えは出にくいところである。
委員	有機か慣行かの二択という考え方ではなく、丹波市に根付いてもらうにはどうすれば良いのか、という考え方も必要かと思う。
委員	丹波市として、どこで何を作ってほしいのか、土地利用型を入れたいのか明確化することも必要と考える。
委員	卒業生の現在の経営状況（面積、品目、離農率など）をアンケート等で具体的に分析することで、現状の課題が見えてくるのではないかと。
委員	修了生アンケートにおいて、就農後に販売先の選択で迷った経験や、一度販売先として決めたが変更した経緯がある場合は、それらについて調査項目を加えるのはどうか。トップラインを作るうえでとても重要だと思う。
委員長	<p>時間も限られているのでまとめる。次の3点の視点で調査を行ってほしい。</p> <p>①入口（来る人）のマーケット 農の学校に来る人が何を求めているのか。</p> <p>②地元は何を求めているのか。土地利用型のノウハウを求めているのか。息子に帰ってきてほしい等のニーズ 丹波市の方々はこの農家を求めている、新規だけでなくUターン等。そういった地元のニーズを分析することも大切。</p> <p>③受けた人がどう考えたのか、思ったのかの整理</p>

	<p>修了生が農の学校に対してどう感じたのか、何が期待通りで何が期待外れだったのかなどを分析する必要がある。また、受講料に見合ったサービスが提供されていたのかも調査する必要がある。農地や販路の獲得についても調査する必要がある。</p>
<p>委員長</p>	<p>費用やスケジュールの制限もあると思うが出来る範囲で検討してもらえればと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>(4)その他</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局から説明</p>
	<p>第2～4回の検証委員会の日程調整について後日また調整させていただく。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日の意見について質問がある。 定員の考え方について、受講生へ「現在の人数はちょうど良かったか」という聞き方を想定しているが、地域住民には別の聞き方が必要との意見が出たことについてもう少し意見が欲しい。</p>
<p>委員長</p>	<p>学校運営の適正化、経営の観点、地域のリソース面の3点を加味して検討すればよいのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>7. 閉会 それでは閉会の挨拶を副委員長にお願いする。</p>
<p>副委員長</p>	<p>この検証委員会で、農の学校が、担い手増加や地域の活性化につながることを期待している。今後も委員の皆様には活発なご意見をいただきたい。</p>
	<p style="text-align: right;">以上</p>